

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 9 日現在

機関番号：14501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23010

研究課題名（和文）戦後前衛書の他分野への展開：美術制度の周縁での受容

研究課題名（英文）Development of Postwar Avant-Garde Calligraphy in Other Fields: Reception on the Periphery of the Art System

研究代表者

向井 晃子 (Mukai, Akiko)

神戸大学・国際文化学研究所・協力研究員

研究者番号：70848465

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、明治期の人為的な「美術」の線引きによって周縁化された「書」という伝統芸術分野から生まれ、戦後に隆盛した革新的な試みである前衛書の多様な展開について、京都国際会館、北海道の滝川市美術自然史館等での作品調査、関係者への聞き取り調査と資料調査を実施した。それらによって、作品の実見に基づいた分析を行い、そのような制作を可能にした支援状況を明らかにした。学会での研究発表は、他分野の研究者とも議論が交わされ、大変有意義なものとなった。研究成果は、単著の一部としての出版し、学術誌へ論文を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は、戦後前衛書の多様な展開とそれを可能にした支援者に注目し、美術制度に支えられなかった芸術表現の支援者あるいは支援状況を検討して、欧米とは異なる歴史と文化がある日本の美術史の特徴を、制度外から逆照射する形で浮き彫りにした。研究成果は、単著と学術誌に掲載された論考にまとめられ、学術書の出版、学術誌の発行及びWeb公開という形で、本研究の成果を広く社会に届けることができたと考える。

研究成果の概要（英文）：This study examines the diverse development of avant-garde calligraphy, flourished after World War , an innovative experiment that emerged from the traditional art field of 'calligraphy', which was marginalised by the artificial categorizing of 'art' in the Meiji period, by surveying works at the Kyoto International Conference Centre and the Takikawa Museum of Art and Natural History in Hokkaido, and conducting interviews and material research with those involved. Through those, the works were analysed and the support conditions that enabled their activities, which were marginalised by institutions and authorities, were clarified. The research presentations at the conference were very meaningful, with discussions with researchers from other fields. The research results were published as part of a monograph and in an article in an academic journal.

研究分野：美術史

キーワード：前衛書 周縁 美術制度 日本近代美術史 伝統芸術

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

前衛書は、明治期に美術制度の線引きがなされた際にその制度外に周縁化された「書」というカテゴリーから生まれた、昭和初期に萌芽がある革新的な書の試みである。研究代表者は、戦後に隆盛したが、書壇からは疎外され、同時代の美術と交流した前衛書の研究から、前衛書家たちの美術制度外での活動とその多様な展開、それらが支えられた状況に興味を持った。本研究は、彼らが制度や権威から周縁化される中で活動を多様に展開させたことに注目し、モダニズム建築と美術との協働があった国立京都国際会館で作品が収蔵された篠田桃紅や森田子龍、地方へも足を運んだ上田桑鳩に目を向け、彼らの革新的な制作とそれらが支えられた状況の解明を目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、美術制度の周縁で活動した前衛書家たちの芸術表現の多様な展開と、その支援者あるいは支援状況を検討して、欧米とは異なる歴史と文化がある日本の美術史の特徴を、制度外から逆照射する形で浮き彫りにすることである。本研究の核心には、明治期の人為的な「美術」の線引きから漏れた書という伝統芸術分野に注目し、戦後になされたその新たな展開を検討することで、「日本美術」や「西洋美術」、「伝統芸術」や「現代美術」といった従来の分類では収まりきれない学際的な芸術表現を美術史の視点から問い直し、現在行われている戦後日本美術の研究をより多面的、重層的に進展させるという狙いがある。

3. 研究の方法

本研究の方法は、次の三つを主軸とした。

1) 作品調査：

篠田桃紅、森田子龍、上田桑鳩の作品調査。調査のため訪問した機関は、京都国際会館、方広寺、京都市京セラ美術館、兵庫県立美術館、三木市立堀光美術館、滝川市美術自然史館等。

2) 聞き取り調査：

京都国際会館の設計者であった大谷幸夫の関係者、上田桑鳩の高知訪問時の協力者の家族等、作家を支えたプロジェクトや支援者の関係者からの聞き取りを行った。

3) 資料調査：

関連文献の収集し、作品分析を補完するとともに、当時の前衛書作家を取り巻く環境の分析を行った。また、前衛書は制度から周縁化されたことから、作品や資料が残りにくい状況があるため、作品調査や資料収集の過程では、作品所蔵や資料保管の経緯なども、可能な限り確認することを心がけた。

4. 研究成果

1) 国立京都国際会館について

1966年に開館した国立京都国際会館は、公開設計競技方式（コンペ方式）で選定された、大谷幸夫によるモダニズム建築である。家具や室内装飾には剣持勇の作品が使用され、大谷と若手美術家たちとの協働もあった。同館では、篠田桃紅の壁面作品と平面作品、森田子龍の屏風作品と平面作品が収蔵されている。1960年代は前衛書が隆盛だった時期であり、同館での作品の実見と資料調査を行うことで、作家の試みを分析するとともに、当時の前衛書に対する眼差しやそれを取り巻く環境の一端を明らかにした。モダニズム建築との協働という点では、篠田の平面作品と森田の作品については、建築竣工後、開館までの準備期間に備品として購入されたことが判明し、それらについては設計者の直接的な意向は薄い可能性が明らかになった。一方、篠田の壁面作品については大谷との協働と言えるもので、作品は会館内の二カ所の壁面に組み込まれ一体となっている。篠田の二作品については、作品分析によって、それまでの篠田の様々な革新的な試みが集約された集大成ともいえる制作であったことが判明した。この研究成果を、単著の一部として執筆し、三元社より刊行した。

2) 上田桑鳩の周縁での活動について

前衛書の創始者的存在である上田桑鳩の地方での活動について、作品調査と資料調査を実施し、それらの分析を行った。有彩色で文字を書く「彩書」は上田が書壇から周縁化された晩年の試みだったが、有彩色という書の範疇におさまりにくい要素もあるため、今まで注目されにくかった。本研究では、上田の活動の多様な展開の一例として彩書に目を向け、滝川市美術自然史館と

三木市立堀光美術館での調査でまとまった数の彩書作品を実見し、作品を分析することで、上田のジャンルを越えるおおらかな制作姿勢と手法を明らかにした。また、滝川や高知における上田の活動の調査からは、上田の石の愛好を共にした人との交流も確認でき、書だけにとどまらない上田の興味がネットワークを広げ、それらが作品収蔵へつながる人の縁を作っていたことも判明した。研究期間中に学会発表を行い、他のジャンルの研究者とも議論を交わして、大変有意義な結果となった。研究成果は論文にまとめ、学術誌に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 向井晃子	4. 巻 1
2. 論文標題 前衛書家上田桑鳩による周縁での試み 作品の所在と「彩書」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 年報PromisVol.1(2022)No.1	6. 最初と最後の頁 62-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 向井晃子
2. 発表標題 「前衛書家上田桑鳩に見る書のモダニズム：「日本近代美術」を周縁から問い直す」
3. 学会等名 明治美術学会2019年度第5回例会
4. 発表年 2019年～2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 向井晃子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 286
3. 書名 戦後前衛書に見る書のモダニズム：日本近代美術」を周縁から問い直す	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------